

=でかけませんか!! =

中ノ口川さわやか文化祭

11月29日・30日開催
両日とも午前9時～午後5時

〔会場〕

日本画	白根市 カルチャーセンター
美術工芸・陶芸・手芸	味方村民体育館
書道	中之口村農村環境 改善センター
洋画・写真	月瀧村農村環境 改善センター

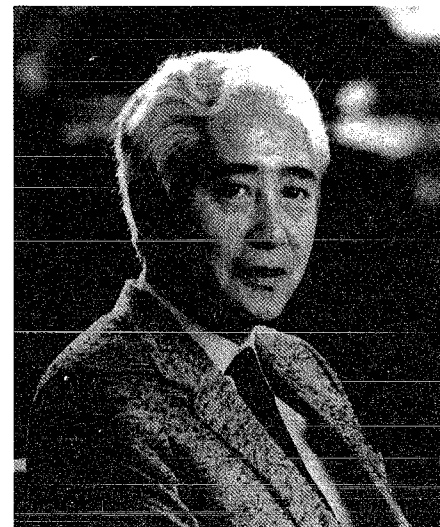
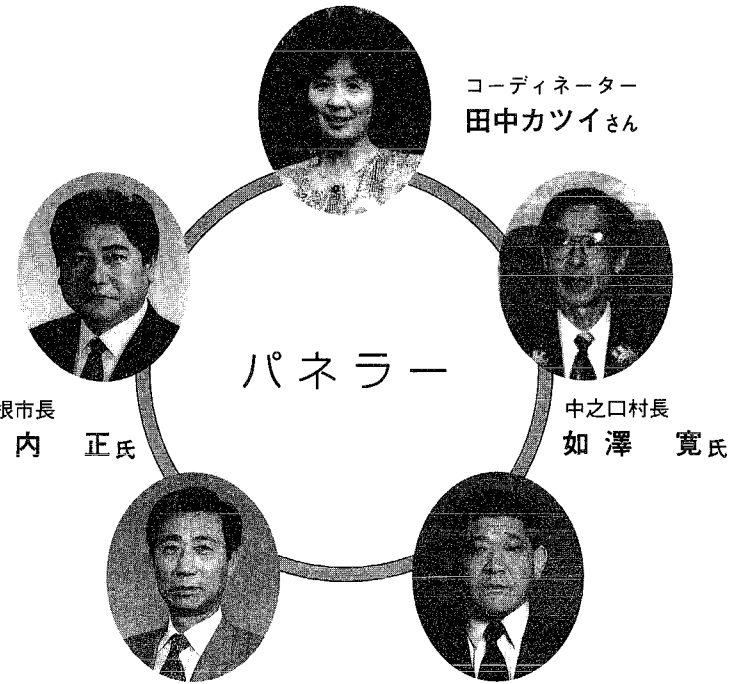
かねてから準備を進めてきた中ノ口川さわやか文化祭が11月29日・30日の両日白根市、味方村、月瀧村、中之口村を会場に開催されます。中ノ口川をさんだ各市村のさわやかな文化交流と、各部門ごとのより一層の技能の向上が図られるものと思われまます。また、各市村長をパネラーにしたパネルディスカッション、作家「藤本義一」氏を招いての講演会等、楽しいお話が聞かれます。なお、各会場とも、入場無料、シャトルバスを運行しますのでご利用下さい。

市村長パネルディスカッション

テーマは「わがまち・むらの21世紀ゆめ物語」

各市村の小学生が描いた絵から、それぞれの未来を想像し、こどもたちのゆめについて、話し合います。

11月30日 午後1時から



各会場ともシャトルバスを運行します。最寄りの会場においでください。

文化講演会

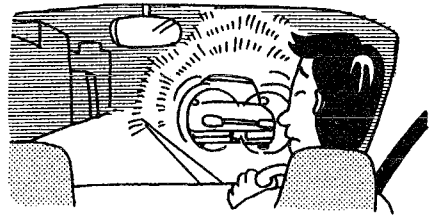
講師：作家「藤本義一」氏

テーマ：「防災のまちづくりとボランティア活動」

11月30日 午後2時45分から

夜間における交通事故防止

生活の24時間化により、夜間における交通事故が増えています。日も短くなる一方で、午後4時を過ぎると暗くなり始め、5時には真つ暗になります。事故の起こりやすい時間帯もこの頃です。一口の疲れが出ることで、白宅へ帰る車で交通量も多く、事故の起こりやすい条件がそろいます。ドライバーはより慎重な運転を、歩行者は明るい服装や反射材の活用などで、お互いに事故防止に協力しましょう。



◎夜間は昼間の2・8倍の死亡事故率

平成8年中に全国で発生した交通事故は77万1,084件、うち死亡事故件数は9,517件でしたが、夜間では発生件数は23万7,184件で全体の30・8%、死亡事故は5,241件で全体の55・1%を占めました。

これを交通事故1,000件当たりの死亡事故率で見ると昼間は8・0件、夜間は22・1件になり夜間の方が約2・8倍多いこととなります。このように夜間の事故が昼間の事故を上まわる状態は毎年続いています。

◎高齢者は歩行中、若者は運転中に事故多し

高齢者の交通事故は昼間に多いようですが、死亡事故の大半が歩行者です。夜に外出する時も地味な服装になりがちでドライバーからの発見が遅れるほか、歩道を通らず危険な車道を通ったため事故になったケースもあります。

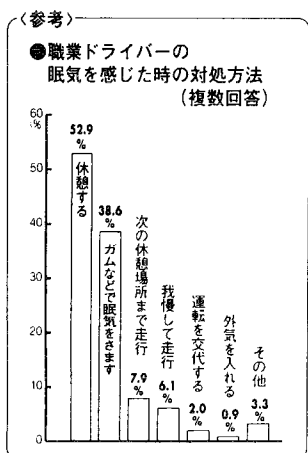
一方、若者の交通事故は夜間に多発しています。夜間は速度感覚が鈍り、速度超過になりがちです。過労運転をする人も中にはいます。夜間に運転する時は、昼間より速度を落として慎重に。少しでも危険を感じたら運転を控えましょう。

居眠り運転による交通事故の実態

「北海道警察本部が居眠り運転で事故を起こしたドライバーに調査」

◎居眠り運転事故の半数は運転開始後30分未満で発生
出発地から事故時点までの経過時間(表1)を見ると、ほぼ半数の事故が「運転開始30分未満」に発生しており、「1時間未満」ではおよそ3分の2を占めます。また、事故地点から目的地までの到達時間は「30分未満」がほとんどであり、到達直前の事故が多いと言えるでしょう。

◎居眠りの兆候を自覚しながら…
さらに事故前に一時的に眠った回数を調べると、1〜2回が3分の2を占めています。(一時的に眠る状態とは、「カクンと意識を失う」状態のことを言います。)

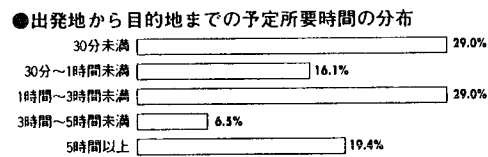


逆に3回以上眠った場合は、16・1%となりますが、さすがに危険を感じて眠気をさますなど対処されているようです。では、眠気のある時になぜ休憩しなかったかと思うと、「目的地までもう少しだから」、「大丈夫だと思った」で7割を占めました。

◎眠気を感じたらどうするか
表2で見ると、「窓を開けた」が最も多く、「ラジオ等を聞いた」「我慢した」が続きます。「休憩を取る」人はほとんどいませんでした。ちなみに職業ドライバーに同じ質問をしたところ、「休憩する」が半数以上、「窓を開ける」「我慢する」がほとんどありませんでした。

以上居眠り運転についての実態でしたが、全体的にみて居眠り運転を甘く見ている傾向があります。これから年末にかけて仕事が忙しくなるかと思いますが、疲れを残さないよう健康に注意して交通事故を起こさないようにしましょう。

〔表1〕



〔表2〕

